

一般質問



金井田
議員

○松浦市の漁業「じち網漁」の規制緩和について

質 ごち網漁とは、袋状の網の端に付けた綱を引き、魚を網の中に追い込む、主にタイを捕獲する漁法です。現在、新松浦漁協のごち網漁者数は、23業者ほどと伺っています。近年の漁獲高の推移についてお尋ねします。

水産課長 新松浦漁協の業務報告書によると、水揚げ数量（水揚げ金額）は、令和元年度978・3トン（4億2573万円）、令和2年度970トン（3億8835万円）、令和3年度782・3トン（3億3527万円）、令和4年度949・2トン（4億9349万円）、令和5年度714・6トン（4億4698万円）、令和6年度660・8トン（4億1264万円）となっています。

質 漁具の規模が半世紀以上変わっていないため、期待する漁ができず、また燃料費の高騰も重なり、漁業に魅力を感じられず、後継者の育成もままならない状態となっています。これからの松浦市を担う若手漁業者のためにも、松浦市と新松浦漁協が連

携し、県に訴える必要があると考えますが、見解をお尋ねします。

市長 ごち網漁は本市としても重要な漁業の一つと考えており、機器の導入を支援しています。また、重要な漁獲魚種であるマダイについては、種苗の購入費の一部を毎年負担しています。県への要望については、漁業者や新松浦漁協で内容を整理していただき、要望に市も随行するなど連携していきたいと考えています。

○農業関連のパイロット事業で整備した道路の管理状況について

質 パイロット事業の概要についてお尋ねします。

農林課長 農業経営規模の拡大による自立経営の育成と大規模モデル農業経営の創出を目的とした開拓事業で、本市においては昭和40年ごろに、土地改良法に基づく開墾や農道整備が県営事業で実施されています。

質 パイロット事業で整備された道路の維持管理はどうされているのか、お尋ねします。

農林課長 これまで同様に地域で管理していたとき、災害以外で道路機能の維持作業を行う場合には、必要な諸費用の一部を支援する市民協働まちづくり事業を活用していただければと考えています。

一般質問



川下
議員

○路線バス廃止または減便による影響の把握と今後の対応、対策について

質 路線バス廃止による変化を前向きに捉え、その利点を最大限に活用するためにも、速やかな全体的な乗合バスのエリア再設定が不可欠であると考えますが、市の考えをお聞かせください。

産業振興課長 地域の代表者や関係団体、交通事業者、行政機関で構成される松浦市地域公共交通活性化協議会において、松浦市地域公共交通計画に基づく議論や課題の共有等を行っているところであり、引き続き検討を行っていききたいと考えています。

質 現在の公共交通サービスをどのように維持・発展させていくお考えなのか、また、公共ライドシェアのような新たな選択肢の導入についても検討されているのかを含め、松浦市の未来の公共交通に関して、どのようなビジョンを描いておられるのか、お聞かせください。

市長 現状のまま本市の地域公共交通サービスを維持していくことには限界があり、抜本的な見直しが必要であると考えます。現在の松浦市に

とって、どのような交通モードが最適か、将来にわたり持続的な公共サービスが可能かを検討しなければならず、来年度中に次期松浦市地域公共交通計画の策定作業を進めることとしていることから、ライドシェアについても検討した上で、計画に反映させていきたいと考えています。

○和牛繁殖経営の現状と地域農業の持続可能性に向けた本市の取り組みについて

質 和牛繁殖の一貫経営へのチャレンジに対する相談支援の体制整備、および県助成事業への市独自の「上乘せ」支援といった公的支援の必要性について、どのようにお考えか、お聞かせください。

農林課長 和牛繁殖農家の所得向上につながる施策として、肥育や加工などの6次化に取り組む農家への支援ができないか、農家の方々の意見も伺いながら検討していききたいと考えています。

質 市民の和牛消費を促進するための一環として、和牛クーポン券の本市独自の発行について、導入の可能性、効果、その他の有効な方策について、どのように検討されているのか、お聞かせください。

農林課長 今後予定している市のプレミアム付き商品券や県の長崎和牛消費拡大キャンペーンなどを活用していただきたいと考えています。